

更女総会

4月21日（火）に、飯山市更生保護女性会の総会が、飯山市福祉センターで行われました。

総勢2百名余りの出席者があり、来賓各位からのお祝いの言葉や議事がありました。

そして、「信濃の国」の斉唱を行いました。さすが皆さん長野県民、大合唱でした（左の写真参照）。

そしてその後、この日のメインイベントとも言える、元・長野日大高校校長、飯山市教育委員の長瀬哲先生の講演が始まりました。



「信濃の国」大合唱の様子



長瀬先生の講演

その38年間の教育現場での経験をもとに、「生徒から学んだ三十八年間」と題してお話してくださいました。

『子どもが自立（自律）するために周りが支えることが大切』、『子どもが帰ったときに「ホッ」とする家庭があれば決して悪い方向には行かない』など、非常にためになるお話でした。

参加者からは、「このお話をもっとたくさんの人たちに聞かせたい」という声もありました。いつかこのような内容の講演会または座談会のようなものを企画したいとの意見も出ました。

〜〜グループ“あすばら”のお誘い〜〜

病気をお持ちのお子さんとそのご家族が、日々の悩み・相談・情報交換をする場です。子どもが病気だと知らされた時、親は心を痛め、やりきれない思いに伏せることでしょう。

それでも頑張って前向きに家事・育児・仕事・病院通いと日々忙しく過ごす毎日の中、「早くこの暗いトンネルから抜け出したい」と願っていることと思います。

そして、病気の子どもをもつ親同士にしかわからない気持ちが沢山ありますよね。お互い分かり合いながら、困っていることを相談したり、沢山の情報を交換しませんか。

5人の親が子どものために「何かできないだろうか…」と動いていますが、もっと沢山の仲間を増やしたいと考えています。

そこで、一人ひとりが活力源になる場をみんなで作っていきたいと思います。一緒に考え、行動しませんか！

（代表者：丸山 公美^{ひろみ}）

日にち： 5月18日（月） 9月14日（月）
6月29日（月） 10月19日（月）
7月13日（月） 11月16日（月）
8月17日（月） 12月14日（月）

※市の保健師、家庭相談員に入ってください日もあります。

時 間：午前10時～11時30分

場 所：飯山市福祉センター（本町）

3階 相談室3 （エレベーターで直接3階までどうぞ!）

あすばらの名前の由来：病気を抱えていても、未来ある子ども一人ひとりが病気に負けず、自身に負けずにまっすぐ強く、勇気をもって生きてほしいとの願いから

お問い合わせ：飯山市社会福祉協議会 ☎ 62-2840

一人で悩まずに、まずは電話してみてください♪

千ビっ子俳句・川柳

飯山市児童センター等では、子どもたちの自然への興味や感情をことばに表現し、豊かな自然あふれる飯山をもっともっと愛する人間になつてもらおうと、俳句や川柳づくりを盛んに取り入れています。

これも、「飯山を愛し笑顔あふれる飯山っ子づくり」の一環としてです。

大人では気づかない、子どもならではの視点で詠まれた俳句や川柳も、心洗われ、また良いものです。今月も、市内の子どもたちから元気な声が届きました。中には、なかなかの秀作もあります。

それでは、どうぞご味読下さい。

- ・こいのぼり空に魚が およいでる
- ・こいのぼり五月にはいるとかざります
- ・こいのぼりえだにひっかかってかなしいね
- ・なのはなにハチがいっぱいやなよかん
- ・こいのぼりヒューヒューとぶよおもしろい
- ・こいのぼり5月5日は男の日
- ・こいのぼりなのはなの上におよいでる
- ・菜の花の黄色い色はきれいだな
- ・菜の花は千曲の川の色と合う
- ・菜の花は色とりどりできれいだな
- ・菜の花は黄色と緑きれいだな
- ・菜の花は黄色い花でいいにおい

※俳句・川柳の先生募集!!

子どもたちに俳句や川柳の基本を教えてくださいださる方を募集します。俳句・川柳のつくり方を子どもたちに教えてあげて下さい。

お問合せ ⑥2 2840

歌

- ・峰越えて降る雪霧をまじへつ 飯山 丸山 昌
- ・早春の日差の中に群れて咲く 一陣のごと森に迫り来 この窓の辺のこひがんざくら
- ・桜花よろめきながら北国へ 飯山 石沢 タツエ
- ・花嫁の白むく着物に感動す
- ・千曲川 水も温みて浮ぶボート 常盤 金井 幸子
- ・デイケアでお花見行きてさくら花 菜の花桜ら 岸辺咲きぬ 見事ななみき花吹きかな

編集後記

菜の花も一斉に咲き、常盤から瑞穂の丘にかけては、一面、黄色一色になりました◆年度始めは総会等が多く、団体の事務局を多くもつ地域福祉（一般）事業所では一時、テンヤワンやであったりしました◆今回から、できるだけ介護保険事業所の様子もお伝

えています予定です。これまでほとんど情報を発信していなかったことを深く反省し、お詫び申し上げます◆これも「声」の欄に投書してくださった方のお陰です◆皆様方からのご意見、ご要望、ご批判等は、私たちにとっての宝物です。これからお寄せいただきますようよろしくお願いいたします。（編集者・木鋪）